

第1章:マクロ経済の展望と課題

2023年の世界経済とASEAN+3地域経済は前半と後半で大きく状況が変わった。上半期、米国及び欧州では金融政策の積極的な引き締め、金融市場の短期的な不安定性、そして、インフレ率の上昇が続いた。一方、下半期には金融引き締めは休止され、金融市場が安定しインフレが鈍化する中で、米国及び欧州の成長は底堅さを示した。

輸出が弱い中堅調な国内需要に支えられ、ASEAN+3地域の成長率は2022年の3.2%から2023年には4.3%に増加した。域内のインフレは緩和したものの、コアインフレ率は国内需要が堅調なことから高止まりした。年末にかけては金融環境が改善し、与信の堅調な伸び、株式市場の回復、債券利回りの緩和、そして、為替レートの安定が観測された。また、健全な外貨準備高は対外ショックからの安定に寄与した。

ASEAN+3地域経済の成長は、2024年にはさらに加速し4.5%に達したのち、2025年には4.2%に鈍化すると予想される。投資の回復と堅調な消費支出に支えられ、国内需要は底堅さを維持することが見込まれる。特に、半導体の輸出と観光産業の回復が成長に追い風となるだろう。2024年から2030年にかけて世界平均を上回る成長を遂げ世界の経済成長の約45%を占める見込みのASEAN+3地域は、中期的に世界経済の成長エンジンであり続けると予想される。インフレ率は引き続き低下基調にあると見込まれるが、コアインフレ率は緩やかなデスインフレーションと堅調な国内需要により高止まりする可能性がある。

ASEAN+3地域の短期的な見通しには様々なリスクがある。地政学的緊張の高まりや気象災害による世界的な商品価格の急騰が最も顕著なリスクである。他の主要なリスクとしては、中国の成長率が予想を下回ること、米国大統領選からの負のショック、ASEAN+3域外の主要先進国の景気後退などが挙げられる。長期的には、地政学的対立の激化、高齢化社会への準備不足、気候変動、サイバー攻撃、パンデミックの発生といった複雑な課題が、マクロ経済及び金融の安定に影響を及ぼす。

しかし、現在のASEAN+3地域のポジティブな見通しは、同地域がパンデミック時に失った政策余力を再構築する機会をもたらしている。2023年、ASEAN+3地域の多くの国は財政再建を続けたが、多くの国はパンデミック前の政策余力を完全に取り戻していない。域内のほぼ全ての中央銀行はインフレ圧力を抑制するために引き締め気味の金融政策を継続している。今後の財政政策は、主に余力を回復しつつも経済を適切に支援することを優先することが望ましい。一方、インフレの上振れリスクは続いており、インフレ期待を安定化することに金融政策の焦点を当てることが不可欠である。

COVID-19発生以降の動向を振り返ると、ASEAN+3地域のGDP成長率は初期の力強い回復にも関わらず、パンデミック前のトレンドを下回っている。これは、厳しいグローバル環境の中でパンデミックが地域経済に傷跡を残し、実質的な成長を押し下げられている状態を反映している。特に、投資の回復は引き続き弱い。成長をパンデミック前の勢いに戻すためには、特に中小企業を対象に、生産性とレジリエンスを高める分野への投資を支援する政策が重要である。より緊密な地域協力も、パンデミックによって損なわれた成長ポテンシャルを強化することにつながる。

ASEAN+3: AMROスタッフによる成長率とインフレ率の推定と予測、2024-25年
(前年比、%)

国・地域	GDP成長率			インフレ率		
	2023e	2024f	2025f	2023e	2024f	2025f
ASEAN+3	4.3	4.5	4.2	6.3	4.3	3.7
ラオスとミャンマーを除く	-	-	-	2.8	2.5	2.3
プラス3	4.4	4.4	4.1	2.3	2.1	2.0
中国	5.2	5.3	4.9	0.2	1.0	1.6
香港	3.2	3.5	3.0	2.1	2.5	2.3
日本	1.9	1.1	1.0	3.3	2.5	2.1
韓国	1.4	2.3	2.1	3.6	2.5	2.0
ASEAN	4.2	4.8	4.9	8.0	5.2	4.4
ラオスとミャンマーを除く	-	-	-	3.0	2.7	2.4
ブルネイ	1.4	2.7	2.9	0.4	1.4	1.0
カンボジア	5.3	6.2	6.4	2.1	3.1	2.8
インドネシア	5.0	5.2	5.2	3.7	2.8	2.5
ラオス	4.3	4.7	4.9	31.2	14.3	9.3
マレーシア	3.7	5.0	4.7	2.5	2.5	3.0
ミャンマー	3.4	3.2	3.2	24.4	16.1	15.8
フィリピン	5.6	6.3	6.5	6.0	3.6	2.9
シンガポール	1.1	2.6	1.9	4.8	3.0	2.5
タイ	1.9	2.9	3.1	1.2	1.2	1.9
ベトナム	5.1	6.0	6.5	3.3	3.6	2.7

出所: CEICとHaver Analyticsを通じた各国当局; AMROスタッフの推定と予測。

注: e=推定値、f=予測値、ミャンマーの成長率とインフレ率は、4月1日から3月31日までの会計年度に基づいている。成長率の地域集計は、購買力平価ベースの2022年GDPを加重平均して推定。インフレ率の地域集計は単純平均で算出。

第2章:明日の舵取り

ASEAN+3地域は、過去20年間で大きな経済発展を遂げた。ASEAN+3経済圏は、今や世界の成長を牽引する最大の原動力である。しかし、目覚ましい成長の背景にあった様々な追い風は弱まり、逆風が高まる中で、ASEAN+3地域が他の高所得国に追いつくための速度は2008-2009年の世界金融危機以降、緩やかになりつつある。さらに重要なことに、この成長の鈍化は、高齢化、世界貿易の再編、急速な技術革新など、主要な長期的課題に直面する中で起きている。

ASEAN+3地域における高齢化は、世界の他の地域よりも急速に進んでおり、生産年齢人口は2020年代後半から縮小すると予測されている。高齢化は、潜在成長率、マクロ経済の安定性、そして財政の持続可能性にマイナスの影響を与えるが、人々が高齢化社会を生産的に過ごすことである程度緩和できる。生産年齢を延長する政策を推進することで、2050年までに約2億人が同地域の労働力に再参入する可能性がある。

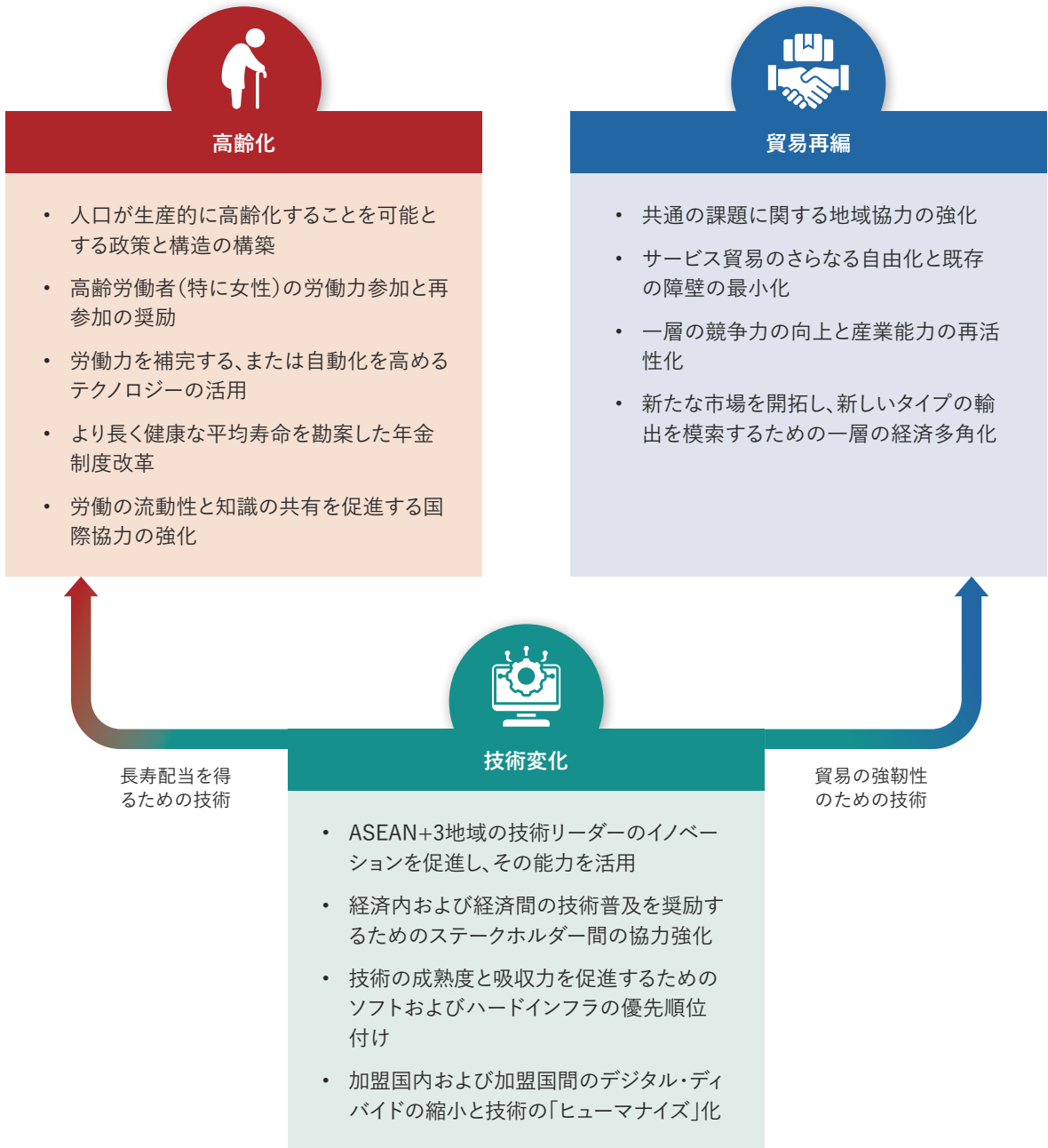
現在進行中の世界貿易の再編は、ASEAN+3地域が築き上げた輸出戦略に重要な影響を及ぼしている。地政学的なダイナミクスは世界的に貿易関係を再編しつつあり、ASEAN+3諸国は自身が持つ比較優位を活用した、新たな貿易機会を得ることができる。同時に、地域の貿易は少数の貿易相手国に集中するようになり、不確実性の高い世界経済では経済安全保障の低下につながる可能性がある。一方で、国境を越えたサービス貿易、特に現代的及びデジタルなサービスを活用することは、成長と多様化のために重要となる。

テクノロジーは、ASEAN+3地域が現在直面する人口動態の変化及び世界貿易の再編といった課題を克服するための様々な解決策を提供する。医療、自動化、教育環境に関する技術進歩は、生産的な高齢化社会の実現に不可欠である。先進的な生産技術とスマートロジスティクスは、ASEAN+3地域のサプライチェーンが突然のリスクに柔軟に対応するために重要な役割を果たす。しかし、テクノロジーは社会変化を引き起こす可能性もある。例えば、人工知能、特に生成人工知能(GenAI)の急速な進歩は、未来の仕事の在り方に対する懸念をもたらしている。GenAIのポテンシャルをふまえ、現実的かつ確かなバランスのとれたアプローチが現時点では適切となる。

最適な政策の組み合わせとタイミングはASEAN+3地域諸国によって異なるが、(1)質の高いインフラの重視、(2)イノベーションの奨励、(3)インクルーシブ政策の促進の3つを勘案した国内政策は、長期的トレンドの課題を成長機会へと変換することを可能とするだろう。

高齢化、貿易の再編成、急速な技術変化は、国境を越えて共通する長期的な課題である。これらの共通の課題、例えば多様化、インフラの高度化、技術の普及、労働の流動性などに効果的に対応するためには、ASEAN+3地域経済圏とその主要な経済パートナーとの間で包括的な対話を強化することが必要である。世界経済の秩序がどのように展開しようとも、ASEAN+3地域が一丸となることで、頑健で強靱な長期的成長を実現することができる。

ASEAN+3地域: 主要な長期的シフトを克服するための重要な政策オプション



出所: AMRO.

- EN
- ID
- MS
- ZH
- JA
- KM
- KO
- LO
- MY
- PH
- VI

これは情報提供のみを目的とした英語原文の和訳です。相違がある場合は、英語版を参照ください。